



新年のごあいさつ 「青い空と小麦畑」

長岡市身体障害者団体連合会
会長 藤田芳雄

皆様、あけましておめでとうございます。

まる3年となった新型コロナの感染がさらに拡大した昨年、春から世界の平和と経済を脅かすロシアのウクライナ侵攻が開始され、終息の兆しを見せないまま、また新たな年を迎えました。

世の中が不安定になればなるほど、隅っこに追いやられるのが社会的弱者といわれる障害者や高齢者です。戦争によって障害者は置き去りにされ、そしてさらに新たな障害者が生まれます。

このようななか、私たち長岡市身体障害者団体連合会では昨年も長岡まつりを目前にした7月に市内本町3丁目の平和の森公園のボランティア清掃を行いました。手に手にブラシや鎌を持って、手触りで草を刈り、手話をまじえて平和像を磨きました。

この長岡平和の森公園では長岡まつりに合わせ、昨年も恒例の平和の森コンサートが開催され、8月1日には「非核都市宣言市民のつどい」も行われました。

そして一方、市内希望が丘小学校では6年生の子供たちが平和学習の一環として長岡空襲の体験のお話を聞き、平和の森公園を訪ね、その後の長岡市民が何を考え、どう行動したかという、公園建設に至るまでの戦後の長岡市民の活動の足跡を訪ね、平和像が辿ってきた道のりなどを学びました。



平和の森公園 平和像

私も昨秋、この希望が丘小学校を訪れ、長岡空襲50年を機に結成し、公園建設にこぎつけた「平和の森をつくる会」の具体的な活動についてお話をさせていただきました。子供たちは昨年11月末、これを自分たちの手でまとめ、1時間の演劇に仕立てて、リリックホールで発表しました。それは小学校6年生の演劇とは思えない、心揺さぶる、まさにエモい迫真の演技で、観た人たちの胸を熱くするものでした。

私も昨秋、この希望が丘小学校を訪れ、長岡空襲50年を機に結成し、公園建設にこぎつけた「平和の森をつくる会」の具体的な活動についてお話をさせていただきました。子供たちは昨年11月末、これを自分たちの手でまとめ、1時間の演劇に仕立てて、リリックホールで発表しました。それは小学校6年生の演劇とは思えない、心揺さぶる、まさにエモい迫真の演技で、観た人たちの胸を熱くするものでした。

長岡身障連かわら版

【発行人】
長岡市身体障害者団体連合会
会長：藤田芳雄
令和5年冬号



「今に生きる私たち、僕たちが何をしなければならないか。世界で起きていることを、自分の事としてとらえ、自分たちが平和を守っていかなければならない」と、力強く訴える姿は、頼もしく、そして確かな未来を感じさせるものでした。

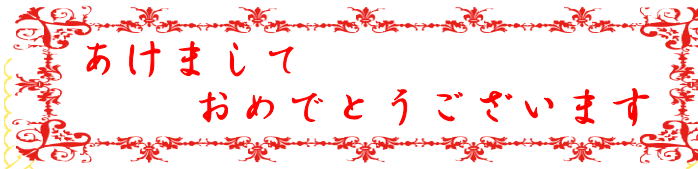
劇の中でも子供たちが訴えたように、私たちも平和は自分自身の問題であると考えています。

ところで昨年秋、私は妻と初めて錦秋の京都を訪ねることができました。全盲の私はゆっくりと散策しながら妻の話や歓声を聞き、その見事な紅葉を脳裏に焼き付けました。戦場の炎ではない、清水寺の燃えるようなまっ赤なモミジの中で、平和のありがたさを痛感したものです。その後、年末に清水寺が発表した、昨年の漢字は、皮肉にも、その時、私が思った「戦」でした。

ウクライナの青と黄色の旗はウクライナの青空と小麦畑の色を表しているといえます。ウクライナの空から爆音や赤い炎が消え、青い空がよみがえり、黄色い小麦がたわわに実る日が一日も早く訪れることを祈らずにはおれません。

それが障害のある私たちの強い願いであり、障害者の福祉につながることを強く感じているからです。

軍備拡張を急ぐ日本、銃には銃をという、過去の歴史に誤りがなかったか、それが果たして真の平和につながるのか、今年一年が過去の歴史を学び、まちがいなく進むためのターニングポイントになることを願っています。



- | | |
|-----------------|-------|
| 長岡市肢体障害者協会 | 近藤 哲雄 |
| 長岡視覚障害者福祉協会 | 五十嵐政男 |
| 長岡市ろうあ者福祉協会 | 江花 昭夫 |
| 長岡市栃尾身体障害者福祉協会 | 嶋田 貞夫 |
| 長岡市中之島身体障害者福祉協会 | 小林 信栄 |
| 長岡市川口身体障害者福祉協会 | 大淵 時江 |

新年のごあいさつ

長岡市長 磯田 達伸

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

長岡市身体障害者団体連合会におかれましては、市内の身体障害者団体をつなぐ重要な役割を担い、会員の福祉向上のため日々活動され、長岡市の障害者福祉の向上に寄与されていることに、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する一方で、去年は、感染防止対策を講じた上でさまざまな活動が再開・継続された1年となりました。3年ぶりに開催された長岡まつり大花火大会を筆頭に、各支所地域をはじめ市内各地では、地域の魅力を活かしたまつりやイベントが開催され、元気で活力ある日常が徐々に戻ってきました。

今後、ウィズコロナのもと、医療体制の強化をはじめ、長岡市医師会や医療機関と連携し、引き続き感染症対策に努めてまいります。加えて、物価高騰や円安などの影響による大きな変化に直面する中で、市民生活を全



力で守り、健康・福祉・子育て支援・教育のさらなる充実を図るとともに、多様性（ダイバーシティ）の確保に取り組んでまいります。

本市の障害福祉施策においては、昨年、日常生活用具給付の対象に在宅人工呼吸器等使用者の非常用電源装置を新たに追加しました。また、現場の皆様から要望が多く寄せられていた、強度行動障害をお持ちの方を受け入れる施設への補助制度を創設し、必要とする福祉サービスを受けられる体制を強化しました。いずれも県内初の取り組みであり、今後さまざまなニーズに耳を傾け、長岡市の障害者福祉の向上に努めてまいります。

さらに今年、令和6年度からスタートする、第7期長岡市障害者基本計画・障害者福祉計画の策定に着手いたします。今後も、各種福祉施策を着実に推進し、障害のある人もない人も、ともにいきいきと暮らせるまちづくり、そして誰もが暮らしやすい「地域共生社会」の実現に向けて、皆様と一緒に取り組みを進めてまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、長岡市身体障害者団体連合会のますますのご発展と、今年一年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。



ザ・チャレンジド 【第3回】

外川澄雄さん(視覚障害)

「ヴァイオリンを弾くのと、一杯飲むのが毎日の楽しみです。」と語るのは、市内関原南にお住いの外川澄雄さん(76)

まだ自分が幼かった頃に、ヴァイオリンを趣味にしていた父から手ほどきを受けたのが始まりだった。中学に入るころまではやっていたが、その後はサッパリで、



触りもしないし、すっかり忘れていた。

50歳代で、若い頃からの網膜萎縮症に緑内障が併発して視力を失った。やれる事が少なくなったと感じた頃にヴァイオリンを習ったことを思い出し、引っ張り出してきて手にしたのがそもそもの始まり。

まさに失明がきっかけとなり、60歳にして50年ぶりのヴァイオリンとの再開となった。父から習った「きらきら星」を弾いてみたらススッと弾けた。「おっ、これはいけるかな」と思ってやりだしたのが今でも続いているという。今はもうすっかり見えなくなって光を少し感じる程度だが、子供の頃に覚えたものは指先がすっかり覚えているという。



「新年のごあいさつ」

長岡市社会福祉協議会 会長 本田 史郎

新年あけましておめでとうございます。

長岡市身体障害者団体連合会の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかに迎えられましたことと、心よりお喜び申し上げます。



旧年中は、当会の運営ならびに事業活動につきまして、多くの方々より、あたたかい御理解と御協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの脅威から社会経済活動の再生に向けた動きが加速する一方で、ロシアによるウクライナ侵攻、知床遊覧船事故など、目を覆いたくなるような出来事がありました。

とりわけ、ロシアのウクライナ侵攻に関しては、報道を通じて連日のように痛ましい映像が流れ、祖国を離れなければならない人、戦地に赴く残された家族の叫びは他人事として捉えることはできません。

また、ウクライナには約270万人の障害のある方が暮らしているとお聞きしましたが、こういった方々が今、どのように生活されて

いるのかという情報が伝わってきておらず憂慮されるところです。

戦争は障害者の権利条約など、あらゆる国際規範を侵害するものであり、戦禍を経験した我が国として、断固、反対する姿勢を示していく必要があると感じています。

今回の惨劇で、ふだんのくらしのしあわせの大切さは、改めて当たり前のことではなく、戦後、先人の方々の尽力により築き上げられたものだと再認識しました。

また、昨今では、障害の有無だけではなく、性的思考や国籍、宗教など、社会的なマイノリティ（個性）を相互理解し、違いを受容するインクルーシブ（包括的）な社会指標が一般的になってきています。

国際調和のピンチをチャンスに。世界の国々で多様な人々が共に暮らしていることを理解するきっかけとし、地域共生社会づくりに向け、心のバリアフリーの推進に努めて参りたいと思いますので、皆様方からより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、長岡市身体障害者団体連合会の益々の御発展と本年が皆様にとりまして、希望に満ちた心穏やかな一年となりますよう、職員一同、心から御祈念申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。



「新しい曲はどうしていますか」と尋ねると、「楽譜が見えないので、妻に、例えば四分音符のド、次は八分音符のソ…というふうに音符を一つひとつ読んでもらい、それを頭の中で再構成して、また少しずつ弾いていくといったふうに練習している」という。

外川さんは元小学校教諭。在職中は車で通勤をしていたが、50歳を過ぎる頃に医師に、近い将来の失明を宣告された。

しかし、外川さんはこの仕事が好きで、ギリギリまで車を運転して仕事を続けたが、いよいよ病状が進んで、見えにくくなり、教頭先生をしていた58歳で退職。

今は家では手探りで庭木の冬囲いなど、まだ、自分でできる事はやってい



るという。

楽しみは1年前に買ったスマートスピーカー（AI）で、クラシック音楽を聴くこと。「話しかけるだけで好きな曲が聴けるので、視覚障害の私にはとても便利」と話す。



「（失明を）辛いと思った事は無いですね。」と笑う。

外出する時は妻に手を引いてもらっている。妻には頭が上がりませんよ。」と素直な笑顔を見せる。

60歳代後半で長岡視覚障害者福祉協会に加入。会の文化祭や地域の集まりなどで演奏することも少なくない。

得意な曲は「ユーモレスク」、先生をしていたこともあり、子供たちには「自分を大切に」という事を伝えたいという。（文責：藤田）

設立50周年記念事業 障害者川柳 その8

聴覚障害者との心のこもった コミュニケーションのために

本連合会では設立50周年事業のひとつとして、全国から「障害者川柳」を募集しました。

このコーナーでは寄せられた1,400句の応募作品の中からピックアップして、毎号ご紹介します。

障害者の日々の暮らしや思い、言いたいことなどが、5・7・5の短い言葉で、笑いとペースの中から見えてきます。

解説 室井 泉柳

白杖で 路面奏でる いい音色

埼玉県 男

【解説】 この作品は最優秀賞に輝いた作品です。作者は障害者ではありませんが、視覚障害者が白杖をコツコツと突きながら、一人歩く姿をほほえましく感じて作ったと言っています。白杖は視覚障害者にとっては欠かせない、大切な補装具ですが、初めて白杖を手にする時は、強い抵抗を感じる人も少なくありません。それを優しく見守ってくれる、ホッとする作品です。



チョット違う だけど私も 地球人?

夢童子 茨城県 男

【解説】 どういう障害の方でしょうか?少し見た目が違う、話し方が変だなどということから、障害者は初めは特別な目で見られがちですが、話したりつきあっているうちに「どこにでもいる、普通の人」という事を理解するものです。そしてその人の人生からたくさんのことを学ぶ場合も少なくありません。

方言の 挨拶に手話 手が止まり

千葉県 男

【解説】 聴覚障害者と健常者の間で、手話で通訳をしている方でしょうか。それまで淡々としていた通訳に、いきなり聞きなれない言葉が入ってきて、「アレ?」と、手が止まってしまう、ユーモラスな光景が目印に映るようです。



⑧ おまたせしました



待つ・待機

ごめんなさい・すみません
申し訳ありません

【待つ】

・右の4指を付け根から曲げて、顎の下に当てる。

【申し訳ありません】

・眉間を右手の親指と人差し指でつまみ、頭を下げながらみぎてを開きます。

【編集後記】

年末の20日頃に、平年より早い大雪で交通機関のマヒ、渋滞、橋の通行止めなど日常生活に困難をきたし、一時はその後も寒波の再来が心配されていましたが、穏やかなお正月を過ごすことができました。

今年は昨年・一昨年のリベンジで、3年ぶりに新年合同交流会が開催できそうですね!

さて、冬は寒いのでどうしても背中が丸まっていますが、意識して背筋を伸ばし、たんぱく質をとり筋肉を鍛えて貯筋しましょう。

また、日光を浴びることはストレスの解消になり、特に起床時に太陽の光を浴びると体内時計がリセットされセロトニンという幸せホルモンが分泌されるそうですよ。



編集委員一同、今年も力を合わせて楽しみながら頑張りますのでよろしくお願い致します。(K・K)

【事務局連絡先】

※ 投稿及び連絡は下記メールにお願いします。

メール: nagaokasinsyou@yahoo.co.jp
QRコードからもOK!



ホームページ:

<http://shinsyoren.web.fc2.com/>
QRコードからもOK!

